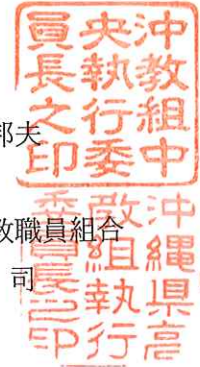


沖教組・高教組第8号  
2021年9月16日

在日米軍司令官 リッキー・N・ラップ中将 様  
在日米軍沖縄地域調整官 H. スターシー・クラディー三世中将 様  
在沖米国総領事 ロバート・T・ケプキー 様

沖縄県教職員組合  
中央執行委員長 上原 邦夫

沖縄県高等学校障害児学校教職員組合  
執行委員長 仲宗根 司



## 在沖米軍によるPFAS汚染処理水放出に対して抗議する要請

在沖米海兵隊は8月26日、米軍普天間飛行場に貯蔵していた有機フッ素化合物のPFASを含む汚染水を公共下水道へ放出を始めました。その日の日米合同委員会では両政府代表者が汚染水に関する対応を話し合う予定だったにもかかわらず、日米の約束も反故にする横暴な行為です。

有機フッ素化合物のPFASは発がん性など健康への悪影響（腎臓がん、胎児の低体重児、甲状腺疾患、潰瘍性大腸炎など）があり、自然界ではほとんど分解されず蓄積していきます。それは通常の下水処理では取り除けず、宜野湾浄化センターから海にそのまま流れていきます。

焼却処分はコストがかかるという理由から、米軍は独自のPFAS排水処理システムを使い、有機フッ素化合物のPFOSやPFOAを人体に影響がない程度に薄めたと主張していますが、薄めたからと言って消滅するものではありません。そもそも米軍の処理が適切かどうかを国や県が放出前に確認する手段が担保されていない現状があります。

水は生命を育む大切なものです。有害物質を垂れ流し、水を汚染する権利は誰にもありません。有機フッ素化合物のPFASを含む汚染水を放出することによって、自然界や県民の健康への悪影響、農作物等の風評被害などが懸念されます。特に子どもたちの心身への影響は深刻で、まさに人権侵害と言わざるを得ません。

汚染水は焼却処分を適切に行い、このような暴挙が二度と起こらないように下記のことを要請し抗議します。

### 記

1. 有機フッ素化合物PFASを含む汚染水の放出をやめ、汚染水は焼却処分を行うこと。
2. 米軍基地内のPFASの存在について国や県、市の立ち入り調査を認めること。

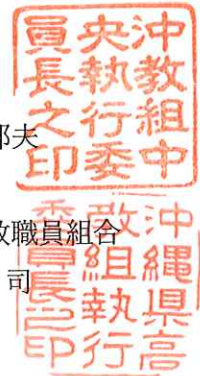
以上

沖教組・高教組第8号  
2021年9月16日

内閣総理大臣 菅 義偉 様  
防衛大臣 岸 信夫 様  
外務大臣 茂木 敏充 様

沖縄県教職員組合  
中央執行委員長 上原 邦夫

沖縄県高等学校障害児学校教職員組合  
執行委員長 仲宗根 司



## 在沖米軍による PFAS 汚染処理水放出に対して抗議する要請

在沖米海兵隊は8月26日、米軍普天間飛行場に貯蔵していた有機フッ素化合物のPFASを含む汚染水を公共下水道へ放出を始めました。その日の日米合同委員会では両政府代表者が汚染水に関する対応を話し合う予定だったにもかかわらず、日米の約束も反故にする横暴な行為です。

有機フッ素化合物のPFASは発がん性など健康への悪影響（腎臓がん、胎児の低体重児、甲状腺疾患、潰瘍性大腸炎など）があり、自然界ではほとんど分解されず蓄積していきます。それは通常の下水処理では取り除けず、宜野湾浄化センターから海にそのまま流れていきます。

焼却処分はコストがかかるという理由から、米軍は独自のPFAS排水処理システムを使い、有機フッ素化合物のPFOSやPFOAを人体に影響がない程度に薄めたと主張していますが、薄めたからと言って消滅するものではありません。そもそも米軍の処理が適切かどうかを国や県が放出前に確認する手段が担保されていない現状があります。

水は生命を育む大切なものです。有害物質を垂れ流し、水を汚染する権利は誰にもありません。有機フッ素化合物のPFASを含む汚染水を放出することによって、自然界や県民の健康への悪影響、農作物等の風評被害などが懸念されます。特に子どもたちの心身への影響は深刻で、まさに人権侵害と言わざるを得ません。

汚染水は焼却処分を適切に行い、このような暴挙が二度と起こらないように下記のことを要請し抗議します。

### 記

1. 有機フッ素化合物 PFAS を含む汚染水の放出をやめ、汚染水は焼却処分を行うよう強く求めること。
2. 米軍基地内の PFAS の存在について国や県、市の立ち入り調査を認めるよう強く求めること。

以上